

心不全患者はがん発症リスクが高い

以前に著者らは地域住民を対象とした症例対照研究により、心不全患者はがんの発症リスクが高いことを報告した。本研究では、初回の心筋梗塞を発症した患者を追跡し、心不全発症者と非発症者のその後のがんリスクを比較した。

米国ミネソタ州オルムステッド郡の住民で 2002 年から 2010 年の間に初回の心筋梗塞を発症した患者 1,081 例（平均年齢 64 歳、男性 60%）を対象に、平均 4.9 年間追跡を行った。その結果、228 例が心不全を発症、98 例ががん（非メラノーマ皮膚がんは除外）を発症した。1,000 人・年当たりのがん罹患密度は心不全群で 33.7 例、非心不全群で 15.6 例であった ($p=0.002$)。心不全と関連するがんのハザード比は 2.16 (未補正)、年齢や性、Charlson 併存疾患指数で補正後は 1.71 であった。がんと関連する死亡のハザード比は非心不全群が 4.90、心不全群が 3.91 (相互作用の $P=0.76$) であった。

したがって、心不全患者はがんの発症リスクが高いことが示され、著者らの以前の研究をさらに支持する結果となった。両疾患に共通する危険因子とメカニズムの解明にさらなる研究が必要である。

出典：Journal of American College of Cardiology. 2016; 68(3): 265-271